

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.

vol. 77
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン



NPO法人 徳島能楽振興会



NPO法人 川塾

とくしま市活セナ- TOKUSHIMA NPO CENTER

徳島市市民活力開発センターとは？

徳島市市民活力開発センター（市活センター）ではNPO活動の支援、行政との協働事業を推進するための拠点として、徳島市や周辺の11市町村（徳島東部地域定住自立圏）に活動の場を持つNPO団体へさまざまなサポートを行っています。指定管理者として、認定特定非営利活動法人新町川を守る会が運営しています。

開館日

火～土曜日 10:00～21:00 / 日曜・祝日 10:00～18:00

休館日

月曜日 ※月曜日が祝日にあたる場合はその翌日
年末年始・お盆

連絡先

[TEL] 088-611-3886
[FAX] 088-624-3860
[mail] nposhimin@fm.nmt.ne.jp
[H P] www.tokushima-shikatsu.com

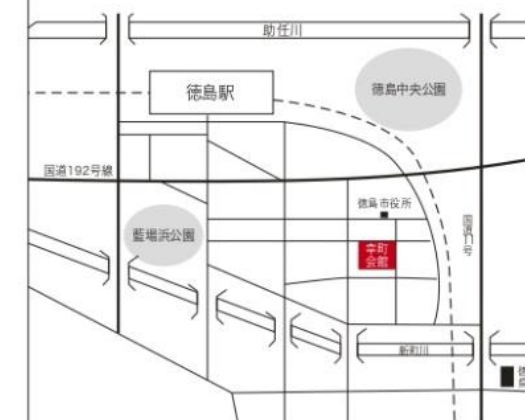
HP



Facebook



ACCESS MAP



所在地

〒770-0847 徳島市幸町3-71-1 幸町会館1階

お車で越しの方

当センターの駐車場（1台分）もしくは周辺のコインパーキングをご利用ください。

バイク・自転車でお越しの方

センター東側の駐輪場をご利用ください。



センター長 岸田 侑

助成金申請のサポートや、NPOと行政、NPOと若者とのマッチングなどに注力しています。ぜひご利用ください。



スタッフ 長谷川 隼

広報誌や会計事務を主に担当しています。会議室や機材の利用、お悩み相談でも、いつでも気軽にお越しください。

PASSPORT.

発行月：2021年 3月 号数：77号 発行：徳島市市民活力開発センター
この広報誌に関するご意見、ご感想は、発行元である徳島市市民活力開発センター（088-611-3886）までご連絡下さい。

イベント情報大募集！！

PASSPORT.への掲載や、メールマガジンでの配信、徳島市市民活力開発センターの掲示板へ配置させていただく情報を随時募集しております。「取材に来てほしい!」「こんなイベントするよ!」といったお声をお待ちしております!!





体感してほしい！能楽の課題と

能楽が好きな人が増えてほしいという想い。

非日常を
体現する

長きに渡り魅了する能楽。全国で唯一、正式な能舞台が無い徳島県。更には『徳島能楽振興会』会員の減少。様々な課題に向き合う力となる、能楽の魅力とは？

唯一能舞台がない徳島県

一方で、徳島県に正式な能舞台がないという課題も抱えています。能舞台がないのは、全国で徳島県だけです。『徳島能楽振興会』では、年に一回公演を開催してきましたが、能舞台がないため、一般のホールの上に臨時で能舞台を建てなければならず、多額の費用がかかってしまいます。そのため、公演のチケット収入だけでは運営が難しく、賄いきれないところは、助成金で何とかやりくりしているそうです。能舞台があれば費用を押さえられ、公演が開催しやすくなる為、徳島に能舞台ができることを切に願っている、と後東さん。能を演じるための舞台ではなく、人形浄瑠璃や華道などに利用したり、京都ではファッションショーを開催したように、自由な発想でいろんな使い方ができるね、と思い描いていました。

知識がなくても言葉がわからなくても

能楽は奥がとても深く、長年能のお稽古をしていても、知らないことはたくさんあるそうです。でも、能楽を知ろうとするよりも、まずは体感してほしいと言います。「わからなくてもいいんやけどね！」「私たちもまだまだわからんこともあるもんねえ笑」と、能楽をわかっている段階でも、それぞれの楽しみ方で、能を楽しんでいるようでした。

京都の舞台に行くと、外国の方が能楽の舞台に見入っている姿をよく見かけるそうです。「言葉が分からなくても、知識が無くても、舞台の緊張感というか、その醸し出す空気みたいなものは、どーんと響いてくる。そういうのを体感してほしい。」と言います。

「能楽に全然触れてない人の中にも、その良さを分かる人がもつという。そんな可能性があるから、みんなに能を見てほしいなあと思っています」と後東さん。『徳島能楽振興会』では、例年公演の前に、能を分かりやすく、より楽しく見るためのセミナーも開催しています。是非、能楽を体感しに来てみてください！

能楽の虜に

「能楽は“非日常”“夢の世界”」と語るのは、今回取材を受けてくださった後東さんと山城さん。山城さんは、「能楽は一種の音楽でもあるし、演劇でもある。ジャズが好きな人、クラシックが好きな人、ロックが好きな人、色んな好みの人がいるように、私は能のリズムが大好き」と言います。リズム、舞の美しさ、言葉や物語、舞台の美しさ、足元の美しさ、装束、とか人によっていろいろな捉え方や好みがあるそうです。後東さんは「能が700年近くも続いているのは、昔からの日本人の感性や美意識、普遍的な生き方、哲学に深く根差すものがあるからだと思う」と、能楽の話をしてくださるときの表情はとても楽しそうで、笑顔で溢れていました。実は、お二人とも謡・舞のお稽古の会に入会する以前は、能楽への興味も知識も全くなかったと言います。しかし、山城さんは、能の発表会のお手伝いをしたときに、目の前で見た先生の舞に「ビビッと心打たれ、それ以来、先生の舞台を観ると、一瞬にその世界に引き込まれてしまうそうです。その後、友人に誘われてお稽古を始め、『徳島能楽振興会』で理事として活動し、今では能楽の虜になっています。

PROJECT TEAM

NPO法人 徳島能楽振興会

平成16年に『徳島能楽振興会』ができ、2年後の平成18年にNPO法人として認定された。能舞台がない徳島県は能楽に触れる機会がほとんど無い。このような現状を改善すべく、能楽の体験教室や学校出前授業、セミナー、公演などを行うことにより能楽の振興や能舞台の建設推進を図るなどしている。

【住所】
徳島市中前川町2丁目
17番地の3
【電話番号】
088-625-9907

HP



子ども体験

徳島能楽振興会では能の舞台の前に子どもたちへ向けた体験活動を行っています。Twitterも開設しているのでぜひご覧ください！

Twitter
アカウントは
コチラ





川で学ぶ、ここでしかできない体験。 子どもたちの“世界観”を育む。

川と共に 生きる

三月七日に吉野川の河川敷で開催された「第十堰水辺の教室」。
そこでびのびと遊ぶ子どもたちと、支える学生スタッフや大人スタッフ。
どんな活動を、どのような想いを持ってされているのか、『NPO法人川
塾』の活動に密着しました。

野鳥観察などを教えてくれる“吉野川の達人”から様々な知識や技術を教わり、ここでしかできないような体験が盛りだくさんとなっているプログラムです。子どもたちに話を聞くと、“吉野川の達人”は、すじ青のりの加工の流れを見せてくれたり、お土産でシジミをくれたり、とても優しくしてくれたそうです。

子どもたちの変化

今回取材を受けてくださった豊米さんは、もともと子どもと触れ合うのが大好きだったそうです。「水辺の教室」を通して、子どもたちの成長や変化が見られることが嬉しいとおっしゃっていました。例に挙げてくださったのが七月にある一泊二日のキャンプ。それまでは、月に一回しか会わないスタッフや他の子どもたちに対して、少し距離を取る子もありますが、キャンプを終えると何か少し変わるそうです。また、川塾では、苦手な食べ物を無理に食べさせません。しかし、「外で食べるから」「みんなで食べるから」などといった条件があると、苦手な野菜が食べれたり、いつもよりたくさん食べたり、そういった変化もあつたそうです。

子どもの世界

豊米さんに、活動のときに大切にしていることについて尋ねると、「子どもたちだけで何かをしているときには、話しかけないでおこうって思いますね。」とおっしゃっていました。それには二つ理由があるとあります。一つは、子どもたち同士だからこそできることがあるから。自分たちで物事に取り組む過程で得られるものもありますし、子ども同士の方がスムーズに進むこともあるそうです。二つ目は“子どもたちの時間”を大事にしてほしいから。「大人と関わる時間も、子どもたち同士で楽しむ時間も、一人で好きなことに没頭する時間も、子どもたち一人ひとりが持つ“世界観”を大事にしてほしいって思っています。」そう答えてくれた豊米さんの目には、「水辺の教室」の元気で優しい子どもたちの姿が映っているようでした。そんなスタッフがいる『川塾』では、他にも様々な活動をしていますので、ホームページ等ぜひご覧ください。素敵なスタッフたちがお待ちしています！

PROJECT TEAM

NPO法人 川塾

『NPO法人川塾』は、吉野川をメインフィールドとし、川遊びを通して、子どもたちに川と共に生きる知恵や技術を体感して貰い、“川とひとをつなぐ”きっかけ作りをしている。「第十堰水辺の教室」だけでなく、親子で楽しめる「はんもつく」、「夏の川遊びキャンプ」、「かつぱの川そうじ」などもしている。

【住所】
徳島県徳島市国府町
佐野塚字出口5-7
【電話番号】
080-6385-4200
【メール】
kawatomoplus@gmail.com



↑取材に対応してくださった「豊米さん」

SNSアカウントはこちら



Facebook



Instagram



Twitter

自然の中で遊ぶ
風が強くまだまだ寒さが残る吉野川の河川敷。雄大な吉野川と、春めいた黄色い菜の花が見える場所で焚火をしました。そこで大人のスタッフの方々とお話をしていると
「もう走れん、誰かわたって！」
「だめ！行こう！」
と、鬼ごっこで子どもに追いかけてヘトヘトになっている学生スタッフが休憩に来ました。それを追いかけて、まだ鬼ごっこをしようと元気にはしゃぐ子どもたち。そんな子どもたちに振り回しながらも、笑顔が絶えない学生スタッフたち。大人のスタッフたちは彼らの様子を見ながら、
「学生スタッフの子たちも、昔はあんな感じやったのにな」と、微笑ましそうに呟きました。

「水辺の教室」とは？
『NPO法人川塾』は、川遊びを通じて“川と人をつなぐ”活動を行なっています。今回は「第十堰水辺の教室」という毎月行われているイベントの見学に行きました。小学四、六年生を対象に募集していて、「水辺の教室」を卒業した高校生や大学生、大人がスタッフとして活動を支援しています。シジミ漁やハゼ釣り、

NEWS



↑日々の活動を支える学生たち。そしてその学生たちを大切にする大人たちの素晴らしい関係性を垣間見ることができました。

NEWS 01

成人式をあきらめさせないプロジェクト

令和3年2月20日、万代クレールを舞台に新成人を祝うファッションショーが開催されました。演者となるのはNPO法人creerの子ども食堂にボランティアとして参加してくれていた大学生たち。美容師、写真館、音響会社、モデル会社など、NPOを中心に多様な主体が集まって活動を共にすることにより、セクターを超えた相互交流を図りました。



↑なかなか外に出ることが出来ない鬱憤を晴らすかのように、賑やかにごみ拾いをしています。

NEWS 02

greenbirdの活動

徳島市市民活力開発センターでは、「ボランティア体験講座」の一環として「認定NPO法人greenbird」の活動を行っています。月に3回、中心市街地や住吉地区の清掃活動に取り組んでいますが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、なかなか活動をする事ができない状況が続きました。現在は活動を再開しており、高校生・大学生を中心に活動を継続しています。

成長を振り返る

1年間、徳島市市民活力開発センターのインターン生として立派に勤め上げてくれた北川さん。ボランティア体験講座の運営だけではなく、様々なセンターの支援業務を共に担ってくれました。そんな経験の中で得たものとは？



Q&A

1年間のインターンを終えて

北川明日香

2020年4月から、徳島市市民活力開発センターの長期インターン生としてボランティア体験講座の運営や、NPO支援業務の一端を担う。高校時代からセンターを通してボランティア活動に従事しており、支援業務や関係性の築き方について学びたいということで大学進学を機にセンターへのインターンを希望した。

Q インターンを始めるときの心境は？

もう随分前のことのように感じますが、とてもポジティブな気持ちだったことを覚えています。ボランティアには以前から参加していたものの、支援したり運営する経験はしたことがなかったため分からないことばかりでしたが、とにかく“変わりたい”とか“成長したい”という思いを強く抱いていました。

Q どのような経験をしてきましたか？

グリーンバードの運営を任せられ、活動体験の場づくりをしました。他にも市民活力開発センターの基本業務を通して様々な団体さんとお話させていただいたり、資料の制作などを担当させていただきました。そのどれもが、学校の授業では習わないことばかりで新鮮でした。

Q この一年での自身の“変化”はありますか？

言葉にするのが難しいのですが、一番は“人の向き合い方”でしょうか。資料一つ作るにしても相手の目線に立つて、見やすさを追求しなければなりません。活動に人を誘ったり、組織の運営をするにあたって、どんな言葉だったか相手に響くのか、どうしたら意欲的に取り組んでもらえるのだろうか、とにかく相手のことを考えるようになりました。

Q 最後に、これからの抱負をお願いします。

とりあえずは一年間やってみようと思いましたが、来年度も引き続きお世話になることになりました。もっと自分自身の出来ることを増やし、相手との時間を大切にできるような支援をしていきたいと思っています。これからもどうかよろしくをお願いします。

